令和６年度　第２回北九州市社会教育委員会議（要旨）

１　日　時：令和６年１１月7日（木）　１０：００～１２：００

２　場　所：生涯学習総合センター　３階ホール

３　出席者：委　員　野依議長　他　１３名（うち１名オンライン）
　　事務局　総務市民局長　他　１６名

４　議題、議事の概要
（１）総務市民局長あいさつ
（２）議題
① 議長・副議長の互選について
② 北九州市生涯学習推進計画（令和５年度評価について）
③ 次期北九州市生涯学習推進計画について

５　主な質疑応答、意見等

議題（ア）議長・副議長の互選について

委員による互選の結果、議長に野依智子委員、副議長に山田明委員、宮本和代委員が選出された。

議題（イ）北九州市生涯学習推進計画（令和５年度評価について）

事務局：≪事業について説明≫

委　員：　令和５年度の事業評価の時期が１１月となっているが、上期中には前年度の評価をしていただき、出てきた意見を踏まえつつ、上期後半、下期にかけて修正しながら事業を進めていくのがいいと思う。時期を早めて開催していただきたい。

次に、施策の柱ごとにモニターでサンプル的に推移を見て評価しているが、参考値として前年度以上かどうかという評価をされている。令和２年度から４年度は、コロナでいろいろな制限がかかり、計画をしていても中止になる時期が続いていたと思うので、令和元年度と比べるのが世間一般の比較ではないかと思う。単位も「千人」を「万人」に変更した方が見やすくなる。

あと、モニターアンケートは１５０人にとっており、回答率９割くらいとのことなので、１３０人くらいだと思うが、北九州市の規模でいけば、１００人少しでは前後１０％の誤差がある。それを前後５％くらいの誤差に抑えるのであれば、サンプル数は４００くらい必要となる。次期の計画をつくるにあたっては、サンプル数が問題だと思う。

最後に、実際の指標について。特に注目した指標は、８ページの「学びから活動への仕組みづくり」と１２ページの「生涯学習推進コーディネーター」に

関してだが、まず、「活動指標」と「成果指標」の書き方が、項目によってばらばらになっている。
　「学びから活動への仕組みづくり」では、成果指標の「活動希望者のうち活動の場につなぐことができた割合」は２５．５％から１５．２％に下がったが、件数自体は２４８件と２倍になっている。
この去年に比べて２倍になった２４８件ということが、そもそも成果指標の項目ではないか。
　「生涯学習推進コーディネーター配置事業」も、実績では研修を１００％開催したとなっているが、研修以外にここに挙げられるものがなかったのか。配置割合は、前々年度、５０．８％から令和４年度は３６．９％に下がり、令和５年度も３６．９％、実績・実施状況には登録者数４８名とある。本来、それが成果なのではないか。
　全般的に、事業によって活動指標と成果指標の並び方がばらばらなので、事業の指標のレベル合わせをしていただくといいと思う。

事務局：　時期の問題、令和元年度との比較、指標等々について事務局で検討し、努力していきたい。

委　員：　成果指標で並べた事業一覧が主要施策と位置付けていると考えてよいか。

事務局：　はい。

委　員：　生涯学習推進計画にかかる事業費に対して、うち主要施策が、柱１、柱３に関しては２割程度、主要施策以外が８割くらいを占めていて、意外と多いという印象を受けた。主要施策が全体の２割しかないように予算上は見える中で、この２割の事業で生涯学習計画の評価をして、どこまで充分評価できていると捉えているか。
　ほかの委員の方からも意見があったように、成果指標の設定・見せ方に課題意識を持っている。この事業計画は、令和７年度に目標値を設定し、その達成率で「順調」、「大変順調」など評価を設定していると思うが、それの比較対象とすべき目標値がこの横長の資料に掲載されていない理由を教えていただきたい。
　あと、生涯学習推進事業、計画の効果をどのように測るのか。幅広い世代、幅広い方に届けていく事業が多いため、効果をみるのがとても難しいと感じた。家庭教育、子ども、高齢者など、具体的にターゲットを定めている事業であれば評価が分かりやすいが、幅広い世代の教育にリーチするような事業もあり、参加者数、講座の実施回数を見ても、どこにどのように届いたかというのは全く分からない。この辺りについて、何か問題意識を持たれているか。

事務局：　予算については、横長の資料の中でかなり「一部計上」というものが多く、今後もう少し詳細を詰めて改めていきたい。
　２点目、数値目標については、ここに出ていないだけかと思う。
　３点目、教育の効果は非常に数字で表しにくく効果をみるのが難しいため、満足度などを拾っている次第。ｎ数の少なさによるブレもあるので、その辺り

についても、今後検討してまいりたい。

委　員：　課題や現状把握、将来の目標を作るときに数値化したほうが分かりやすい。資料自体は非常に分かりやすいし、課題を知り次年度につないでいくのだと思う。

　他の委員からの指摘もあるように、成果の取り方が非常に難しいと思う。各局にまたがっており、一元化するのは難しいと思うが、今日の意見の中で改善ができるところがあれば改善されるとよいと思う。

　高齢者にできるだけ仕事をしていただくことが健康寿命にもつながるということで、定年延長などで対応していると同時に、仕事を辞めた方々がいろいろなところで学ぶということなので、成果の取り方は各局によって違うことになるだろうと思う。私としては、非常に分かりやすくなってきたと感じている。

議　長：　確かに、教育、福祉などの分野は評価がとても難しいと思う。事務局がいろいろ工夫されていると思うので、今後もよろしくお願いしたい。

議題（ウ）次期北九州市生涯学習推進計画について

事務局：≪本市と国の取り組みについて説明≫

事務局：「次期推進計画の策定について」のグループワーク説明

≪３グループに分かれ、グループワーク　約４５分≫

Aｸﾞﾙｰﾌﾟ：　いろいろなキーワードが出た中で、最終的に「寛容性」がすごく大事になってくるという話が出た。

　学んだだけでは、自分の感覚や価値観などを築くだけで終わってしまうかもしれないが、人とつながって、話し合って、コミュニケーションをとると、お互いの価値観や、相手の背景が分かり、寛容性が磨かれて、地域で何かしようという前向きな力になっていくのではないか、探究心を育んでいくということがすごく大事ではないかという話が出た。

　防災や福祉、多世代交流など、様々な意見が出たが、キーワードに関しても、やはり場をつくって、つながっていくきっかけをつくっていくことがすごく大事で、つながりができていくことによって、いろいろな問題が解決につながっていくのではないかという話になった。

Bｸﾞﾙｰﾌﾟ：　大きなポイントは「ウェルビーイング」。その中から枝葉が分かれていって、地域のコミュニティーが大事であるということ、日本型のボランティアというのは自分のためにするボランティアだということ、協働や子ども中心の地域づくりが必要なのではないかという意見が出た。

　次に、多世代の学び。リカレント教育やリスキリング、家庭教育ではジェンダー平等、働き方改革など、学びがないとつながっていけないということが多く出ていた。

Ａ班でも出たが、やはり寛容であること、世の中の逆境を跳ね飛ばす力が必要で、この力は寛容によるものではないかという話が出た。

Ｃｸﾞﾙｰﾌﾟ：　一番の焦点は、市民が参加するというところで「メダカの学校」というキーワードが出た。誰が先生で誰が生徒か分からない、学ぶ人も教える人になるし、教える人も学ぶ人になるという、そういう関係性をこの学びの中でつくっていくというところが、市民全体でみんながつながり合っていったり、共感し合ったりするということで大事なところという話だった。

多様性を認めるとか、ダイバーシティとかいう言葉は、すごく聞きやすい言葉だけれども、市民が本当に理解することも大切なこと。

それから、やはりリカレント教育やＤＸやデジタルの推進など、それぞれがしっかりとして、個人として幸せを獲得していく生き方も大事だけれども、それが全ての人に広がっている、個人だけではなく、みんなのことも考えながら広がっていくというところが民主主義として大事で、結果はすぐには出ないけれども、取り組んでいくべきことではないかということ。

寛容さとレジリエンスという言葉がこちらからも出た。やはり寛容であることも大事だけれども、子どもたちが体験活動とか地域活動とか、体験によって、強く生きていく力を付けていくというところ、逆境を跳ね返す力もそれぞれ個人で付けていく、そういう学びの中で、それぞれがウェルビーイングな社会になっていくというところが大事な言葉として伝えていただいた。

事務局：　今日いただいた意見は、ある程度集約しながら、次期推進計画の方向性を固め、皆さんのご意見も反映しながら策定していきたい。また、策定していくタイミングで社会教育委員会議のほうでご報告させていただき、ご意見をいただきながら作っていきたいので、引き続きご協力をお願いする。

議　長：　防災、ウェルビーイング、メダカの学校、学び合い、そういったたくさんのキーワードが出て、今後の計画にとても参考になるのではないかと思う。そういったことを全部集約していくと、やはり学びを通した人づくり、つながりづくり、地域づくりということに集約されるのではないかと思う。